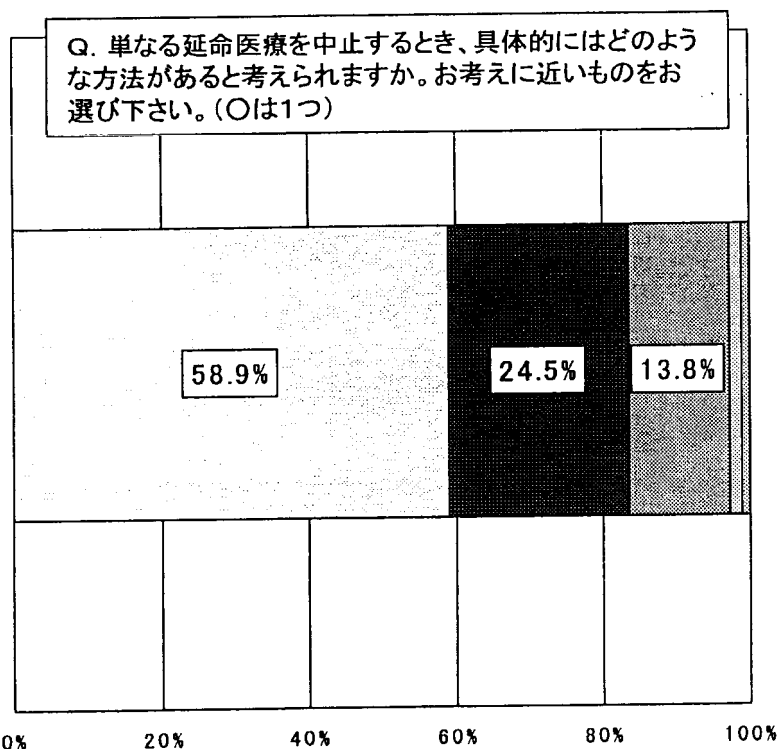
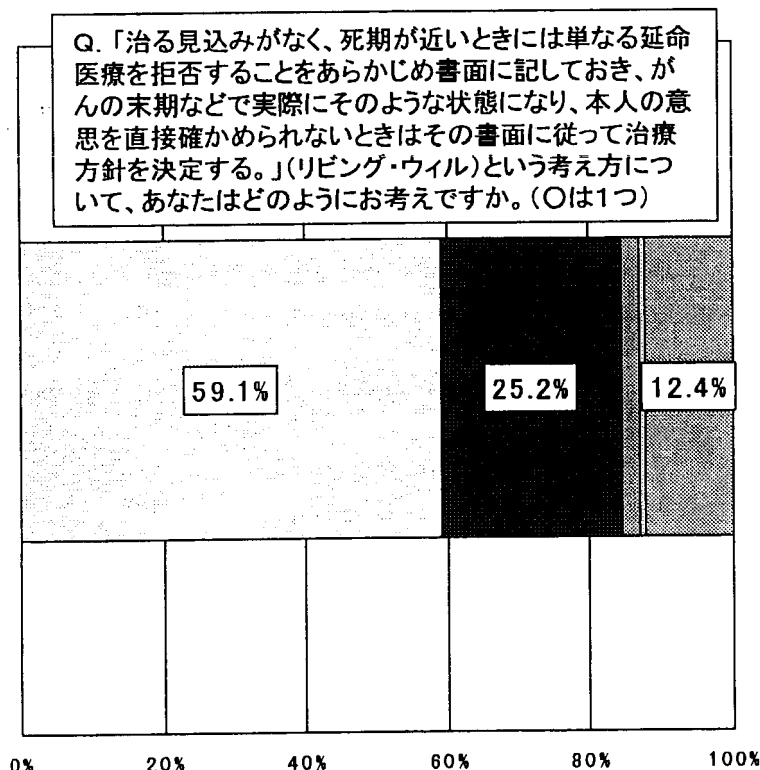


終末期医療への対応



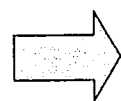
- 痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法
- 単なる延命医療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法
- あらゆる苦痛から解放され安楽になるために、医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法
- 分からない
- 無回答



- 賛成する
- 患者の医師の尊重という考え方には賛成するが、書面にまでする必要がない
- 賛成できない
- その他
- わからない・無回答

出典：厚生労働省「終末期医療に関する調査等検討会報告書」平成16年7月

- 終末期の緩和ケアを重視する意見が過半数(58.9%)
- 終末期の患者の意思表示としてリビング・ウィルに賛成する意見が過半数(59.1%)

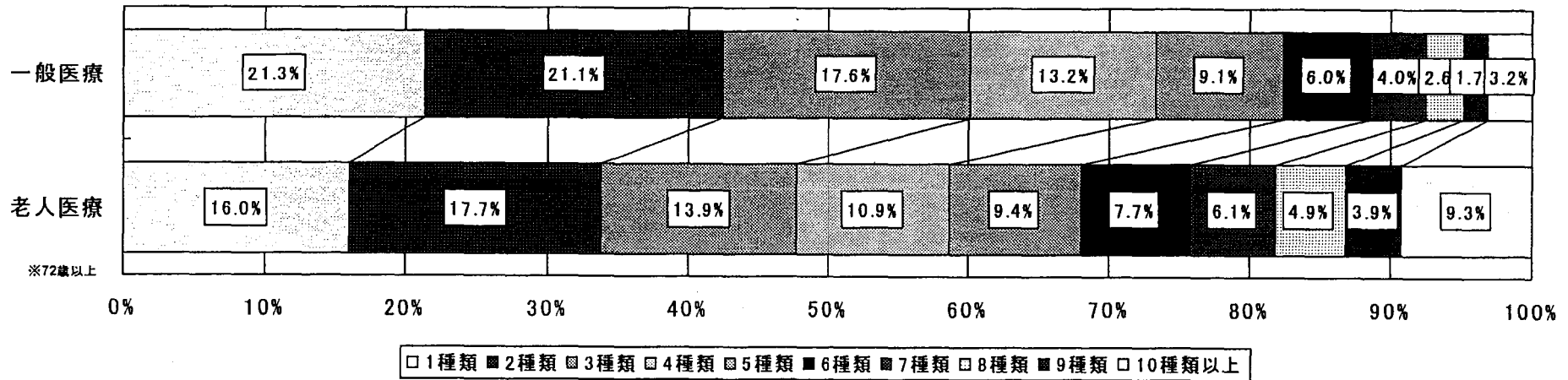


終末期医療は患者の尊厳・選択を重視すべき。
医療機関・居宅における緩和ケアを適切に評価すべき。

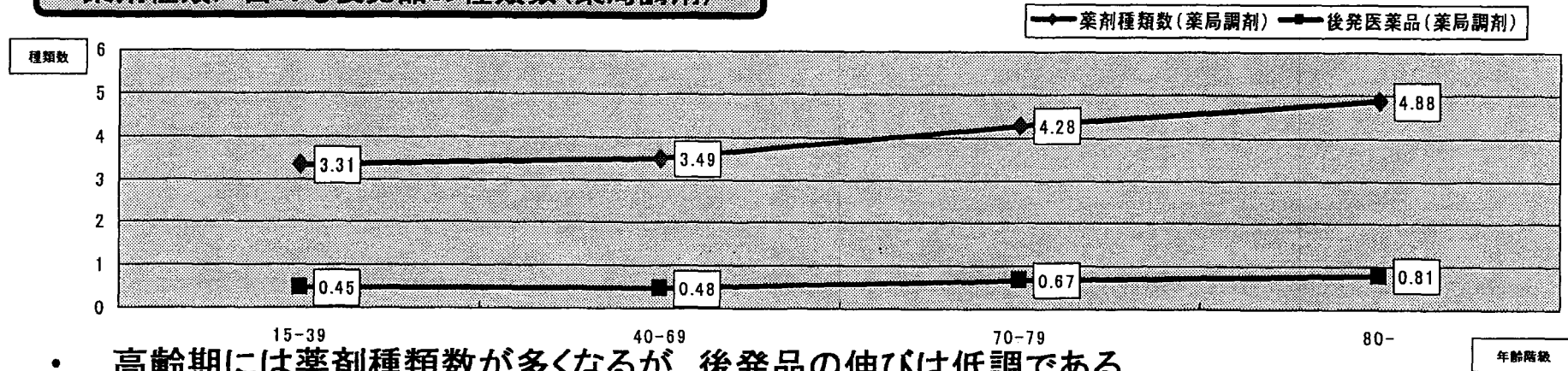
薬剤給付の適正化

高齢者の薬剤種類数の状況(薬局調剤)

出典:厚生労働省大臣官房統計情報部「社会医療診療行為別調査」平成17年



薬剤種類に占める後発品の種類数(薬局調剤)



- 高齢期には薬剤種類数が多くなるが、後発品の伸びは低調である

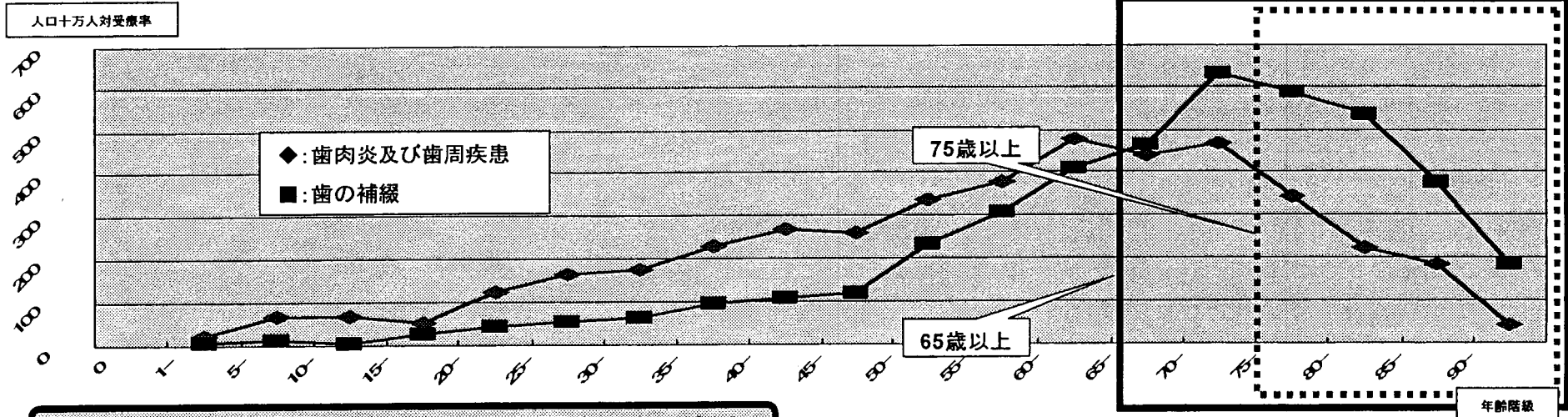


処方せん様式をさらに見直すべき(原則「後発品」)。
薬担規則に後発品調剤の努力規定を盛り込むべき。

歯科医療における口腔ケア・予防の充実

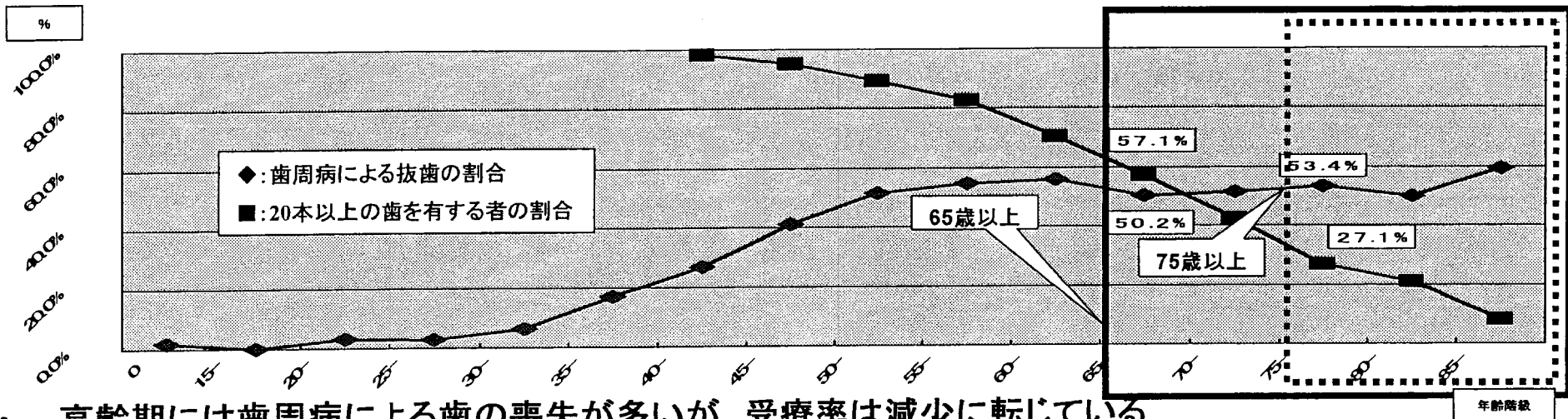
高齢者の受療状況(歯科)

出典:厚生労働省大臣官房統計情報部「患者調査」平成17年

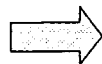


歯周病による抜歯と20本以上の歯を有する者の割合

出典:厚生労働省「歯疾患失態調査」平成17年/財団法人8020推進財団「永久歯の抜歯原因調査報告書」平成17年3月



高齢期には歯周病による歯の喪失が多いが、受療率は減少に転じている



口腔清掃、義歯等の調整などの口腔ケアを評価すべき。
中高年期を対象に歯科保健対策をさらに推進、強化すべき。

2007年9月14日

社会保障審議会医療部会
部会長 鴨下 重彦 殿

社会保障審議会医療部会
委員 堤 健吾

(日本経団連医療改革部会部会長補佐)

『後期高齢者医療の診療報酬体系の骨子(案)(たたき台)』について

「後期高齢者医療の診療報酬体系の骨子」とりまとめにあたり、以下の通り意見を提出いたします。

1. 新たな診療報酬体系の設定にあたっては後期高齢者のみではなく、制度の支え手である現役世代の納得性の観点も踏まえるべきである。そのためには、必要な医療が提供されることを前提に、給付費の増加の抑制が図られるような効果的・効率的な医療提供を促す体系を構築していくべきである。

具体的には以下のような点を加味していくことが必要であると考えます。

- (1) 包括的な支払方式を基本とした体系の構築
- (2) 患者の受診・服薬行動の適正化の観点からの「主治医」機能の明確化
- (3) 在宅医療推進のためのコメディカルの役割強化と適正な評価
- (4) 介護保険との連携強化と療養病床再編の着実な推進を含めた入院医療の適正化

2. また、制度構築に当たっては、以下の観点からICT化への対応を徹底すべきである。

- (1) 円滑な情報共有の促進や非効率性の排除
- (2) 患者にとっての利便性の向上や医療の透明性の確保
- (3) 事務の効率化や医療情報の蓄積・分析を通じた適正な制度運営

以上